

授業科目名	演劇ワークショップ実習 C	担当教員	山内 健司 山谷 典子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2年 第2クォーター		
講義内容	<p>これまでに履修したコミュニケーション演習などで培われた、演劇のものの見方を通じたコミュニケーションの考察を土台に、専門的な演劇創作に触れる第一歩の時間とする。</p> <p>話し言葉の複雑さ豊かさと向き合う劇作の視点、言葉が生成されることの不思議さに触れる演技の視点、人々が集って創作・上演の場をつくる演出の視点を学ぶ。フィクションを支えるさまざまなファクターから、他者を訪れることや、自身の世界観の拡張を試みる。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィクションの世界を構成する戯曲の仕組みを知る。 2. 私たちが話す行為の複雑さ豊かさについて造詣を深める。 3. クリエイティブな創作・上演の場とは何かを知る。 		
授業計画	<p>この授業は短期間で集中して行い、ゲストスピーカー等を招き、多様なアーティストの世界観やメソッドに触れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「書く」という原点を見つめた小作品を創作し、考察する。 2 戯曲の基本的な構造を踏まえた小作品を創作し、検証する。 3 「話す」という原点を見つめた小作品の創作し、考察する。 4 演技の仕組みの作り方を踏まえた小作品の創作し、検証する。 5 自身と他者の身体・声・言葉と遊び、上演し、検証する。 6 他者と協働する上演のプロセスを検証する。 		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・創作における個人的な準備（リサーチ、課題設定など）を十分に行なって授業に臨むこと。 		
テキスト	授業内で指示する。		
参考文献	授業内で指示する。		
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での取り組み・発言（50%） ・発表における取り組み・発言（50%） 		
履修上の注意 履修要件			
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。		
備考欄	定員超過の場合は、抽選などで選考する場合があります。		